７月３１日土曜日。第６回北オホーツク１００ km マラソンが、浜頓別町と猿払村を巡るコースで行われました。当日は、午前 11 時 30 分に最高気温 28.2 ℃を記録するなど炎天下の下、全国から集まった 618 人のランナーが一斉にゴールを目指しました。

その炎天下の中、５０名を越える生徒がボランティア・スタッフとして活躍しました。バドミントン、バスケットボール、ボランティア、吹奏楽の４つの部局の生徒たちです。体育館での着替え等の引き渡しや、中央エイドでの氷と水の提供に汗を流しました。

ゴール担当の仕事はゴールテープの用意や完走メダル、飲み物等の配付です。
もちろん、ゴールを目指すランナー達への声援も忘れません。
「ガンバでーす！」「もう一息ですよー。」「お疲れさまー。」「おかえりなさーい。」

元気よくゴールする人や倒れ込む人、手をつないでゴールする人などがいる中、ひとりひとりのランナーに合わせ沿道からかけられる声また声。ふだんはクールな生徒たちも引き込まれ、思わず大きな声で応援。ゴール前は夜７時まで歓声と熱気にあふれました。

ゴールした方からお話をうかがいました。
「『もうダメだ』と思った時、沿道の応援に励まされました。かけてもらったひと声で本当に持ち直せたんですから。大げさかもしれませんが『天の声』。感謝しています。」

応援はこんな風に受けとめていただいていました。コミュニケーションですね。頑張る誰かを励まし支えようとする思いが、ブーメランのように帰ってきたようです。励ましていた生徒たち自身が、実はランナー達からたくさんの元気をいただいていた・・・。

さて、就職や進学の試験解禁の時期が近づいています。励まし欲しい、支えて欲しい、と思うこともあるでしょう。そんな時は、誰かを励まし支えることから道が拓けるかもしれません。

平成２８年８月２３日

北海道浜頓別高等学校長
佐々木　　淳